

職制60周年まで

静岡県における養護教諭のあゆみ 2

1 発足と発展

昭和32年、静岡県学校保健会職域部会「静岡県小中学校養護教員部会」として発足した。その後、平成6年に組織の在り方について「組織検討委員会」を発会し、時代のニーズに応え、将来への展望に立ち、望ましい養護教諭の職務を研究する組織の確立と、会員一人一人の声を反映させるべく組織の在り方についての検討をスタートした。そして、県下養護教諭の意志統一及び関連機関のご理解を得る等のステップを踏み、3年後の平成9年研究会組織「静岡県養護教諭研究会」を発足した。静岡県の養護教諭にとって、新しい歴史の1ページを刻む年になり、学校保健会職域部会から独立した研究会組織「静岡県養護教諭研究会」に生まれ変わり新たな門出をした。新しい研究会は、県教育委員会・県校長会・県教育研究会・県学校保健会等のご指導・ご助言をいただき、会員の意見をもとに検討を重ね、練りに練って作った「学校保健の向上と養護教諭の資質の向上をめざす研究会」である。

「静岡県養護教諭研究会」は年々活動を定着化させ、養護教諭の研究会組織として、また会員とともに歩む会として発展し、現在に至っている。

2 この10年間の歩み

ここ数年の養護教諭に対する追い風が吹く中、静岡県の歩みに風を吹かせたのは、大きく次の2点である。

1つは、平成9年度の新組織「静岡県養護教諭研究会」の誕生である。私たちの研究会組織としてスタートし、年度を追って研究会のテーマを「躍動」―「チャレンジ」―「追求の旅」―「前進」として会員が一丸となって「学校保健の向上と養護教諭の資質の向上」をめざしている。本研究会の研修会は、年2回県教育委員会と共催で行い、夏季は全体研修、冬季は企画により多様である。平成12年度は新たな役割の基調講演とベテランの会員をコーディネーターとし班別協議を行っている。

2つめは、研究会の専門委員会の推進である。平成4年度から、組織作りをし、会員も巻き込んで行なっている。平成12年度の専門委員会は、以下の通りである。

(1) 調査研究委員会	「養護教諭に関わる調査」を毎年全会員に行い、結果を理事会・会員に報告するとともに県教育委員会や県校長会にも報告する。
(2) 事例集編集委員会	養護教諭の執務の中で、今日的課題の取り組みを事例集としてまとめ、隔年に発行している。平成 12・13 年度の事例集Ⅶは、「薬剤乱用防止教育」をテーマに取り組んでいる。
(3) 会誌「たちばな」編集委員会	研究誌的内容と会誌内容を合わせもった冊子で、毎年発行している。平成 12 年度の「たちばな」43 号のテーマは「21 世紀に求められる養護教諭像」である。
(4) ホームページ作成委員会	IT革命が叫ばれる昨今、社会のニーズと会員のネットワーク作りのため、平成 12 年度から発足し、作成に取りかかっている。

3 これからの活動

今後、教育も地方分権の時代になることを踏まえ、研究会として、「(1)調査研究活動を生かした要望・要請活動の推進を図る。(2)養護教諭の専門性を高めるため「求める研修」の充実を図る。(3)組織の一層充実のためネットワーク作りを図る。」などの活動の推進に努めていきたい。

[平成12年度会長 渡辺千津子]